

# 第33回日本核医学技術学会総会学術大会日程

[期 日] 平成25年11月8日（金）・9日（土）・10日（日）の3日間

[会 場] 福岡国際会議場（福岡県福岡市博多区石城町2-1）

[会 議] 平成24年度第6回理事会 11月7日（木）15:00～18:00（第6会場）

総 会 11月8日（金）15:00～16:00（第5会場）

第1日目 11月8日（金）

**一般研究発表** 第5会場 10:00～14:30

第6会場 10:00～15:00

第7会場 10:00～15:00

**ポスター閲覧**（503 会議室）14:00～17:30

**合同開会式・会長講演大会長講演**（第1会場）9:30～11:00

会長講演

「脳核医学の成果と今後の展開」

第53回日本核医学会学術総会会長

桑原 康雄

大会長講演

「歩んできた道」

第33回日本核医学技術学会総会学術大会大会長

大屋 信義

**合同特別講演**（第1会場）11:00～12:00

司会 桑原康雄（福岡大学病院 放射線部）

司会 大屋信義（九州大学病院 医療技術部）

「脳核医学と分子イメージング — 核医学を目指す若い人たちへのメッセージ」

独立行政法人放射線医学総合研究所

菅野 巖

**卒後教育プログラム**（第7会場、第6会場（中継））16:00～17:30

司会 西村 圭弘（国立循環器病研究センター 放射線部）

司会 河村 誠治（純真学園大学保健医療学部放射線技術科学科）

循環器領域における心筋PETの幕開け

北海道大学大学院医学研究科分子イメージング講座

吉永 恵一郎

半導体検出器がもたらす心筋SPECT検査の新時代

群馬県立県民健康科学大学 診療放射線学部

高橋 康幸

**合同薬剤調製セミナー**（第7会場）17:30～18:30

司会 長木 昭男（倉敷中央病院 放射線センター）

I. 「薬剤標識と投与のリスクマネージメント・患者誤投与防止や管理の重要性」

済生会熊本病院 中央放射線部

井上 淑博

II. 「<sup>99m</sup>Tc 標識のポイント・注意点」

日本メジフィジックス株式会社 兵庫工場 品質管理課

吉成 糸子

第2日目 11月9日（土）

**一般研究発表** 第5会場 17:00~17:50

第6会場 9:00~18:30

第7会場 9:00~15:40

**ポスター閲覧** (503 会議室) 9:00~18:30

**ポスター発表** (503 会議室) 13:30~15:30

**技師教育講演** 第5会場 9:00~17:00

1. よくわかるPET-CTのCT原理

(独) 理化学研究所 ライフサイエンス技術基盤研究センター 和田 康弘

司会 宮原 淳一 (産業医科大学病院 放射線部)

2. よくわかるPET-MRのMR原理

福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター 先端臨床研究センター 南部 武幸

司会 勝田 昇 (熊本大学医学部附属病院 中央放射線部)

3. 核医学のエビデンス構築のためにやるべきこと

国立長寿医療研究センター 放射線診療部/脳機能画像診断開発部 伊藤 健吾

司会 野口 輝也 (熊本地域医療センター)

4. 病院での核医学検査の新人教育方法

東京慈恵会医科大学附属病院 放射線部 平瀬 清

司会 西谷 芳徳 (飯塚病院 中央放射線部)

5. RI検査の被ばくと安全性

東京医科大学八王子医療センター 放射線科 小泉 潔

司会 宮副 浩司 (九州労災病院 中央放射線部)

6. PETの画質評価法と性能試験の実際

日本メジフィジックス株式会社 画像情報センター 大崎 洋充

司会 中山 晃一 (大分大学医学部附属病院 放射線部)

7. 最新CT、MRからみた核医学の長所

九州大学大学院医学研究院臨床放射線科学分野 分子イメージング・診断学講座 長尾 充展

司会 安岡 博昭 (日本メジフィジックス株式会社)

8. 演題査読評価法の導入と査読結果の報告

熊本大学大学院生命科学研究部 医用画像学講座 伊藤 茂樹

司会 高木 昭浩 (富士フィルムR I ファーマ (株))

合同シンポジウム（第1会場） 10:00~12:00

「臨床核医学における定量測定と精度」

司会 富口 静二（熊本大学医学部保健学科放射線技術科学専攻 画像機器工学分野 医用画像学）

司会 伊藤 茂樹（熊本大学大学院生命科学研究部医用画像学分野）

1. 脳核医学検査における定量測定とその精度

国立循環器病研究センター研究所 先進工学センター 画像診断医学部 飯田 秀博

2. 心筋血流量：有用性とピットフォール

長崎大学 原爆後障害医療研究所 工藤 崇

3. 腫瘍（FDG：SUV）

放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病院 診療放射線室 谷本 克之

4. 腎機能診断における腎臓核医学検査の特長と役割

恵佑会札幌病院放射線画像センター 伊藤 和夫

合同パネルディスカッション（第1会場） 10:00~12:00

「国際学会の Globalization のなかで何をすべきか」

司会 井上 登美夫（公立大学法人横浜市立大学大学院医学研究科 放射線医学）

司会 畑澤 順（国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科 核医学講座）

・アジア・オセアニア地域

防衛医科大学校 放射線医学講座 小須田 茂

・米国核医学会の紹介

米国シアトルワシントン大学放射線科 蓑島 聡

・指定発言：N: Nuclear Medicine Global Initiative- Pediatric Dose Harmonization Task Force

東京慈恵会医科大学附属本院 放射線医学講座 内山 眞幸

・IAEAによる核医学活動と日本核医学会の係わり方について

群馬県県民健康科学大学・大学院 診療放射線学部 渡邊 直行

・ヨーロッパ核医学会（EANM）の紹介と活動

国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科 核医学講座 畑澤 順

・核医学技術関連学会の活動

茨城県立医療大学 保健医療学部 放射線技術科学科 對間 博之

Voice of Customer1（第7会場） 16:00~17:30（90分）

「メーカーとの信頼関係構築のために」

東芝メディカルシステムズ（株） 末兼 浩司

GEヘルスケアジャパン（株） 吉田 憲司

（株）日立メディコ 磯島 博

(株) 島津製作所	高橋 宗尊
シーメンス・ジャパン (株)	中西 啓
日本メジフィジックス (株)	柳沢 正道
富士フイルムR I ファーマ (株)	高木 昭浩
日本核医学技術学会	片淵 哲朗

**Voice of Customer2 (第7会場) 17:30~18:30 (60分)**

「装置、性能、ソフトの要望」

東芝メディカルシステムズ (株)	本村 信篤
GEヘルスケアジャパン (株)	大久保 公実子
(株) 日立メディコ	新田 浩一
(株) 島津製作所	水田 哲郎
シーメンス・ジャパン (株)	中西 哲也
日本メジフィジックス (株)	成田 篤
富士フイルムR I ファーマ (株)	寺岡 悟見
日本核医学技術学会	三村 浩朗

第3日目 11月10日 (日)

**ポスター展示** (503 会議室) 9:00~13:00

**教育セミナー** (第6会場) 9:00~10:00

「これから10年の核医学の動向」

司会 大屋 信義 (九州大学病院 医療技術部)

- ・ 核医学の治療 金沢大学 医薬保健研究域医学系核医学 絹谷 清剛
- ・ 核医学の診断 北海道大学大学院医学研究科 病態情報学講座核医学分野 玉木 長良

**ワーキンググループ報告** (第7会場) 9:00~10:00

司会 藤埜 浩一 (大阪大学医学部附属病院 医療技術部)

1. がんFDG-PET撮像法の標準化WG

「がんFDG-PET/CT撮像法ガイドライン の改訂点 (追加項目) について」

独立行政法人 国立がん研究センター放射線診断部 島田 直毅

2. 核医学で使用する密封線源の安全取り扱いに関するガイドラインの検討WG

「表示付<sup>57</sup>Co面線源の安全取り扱いに関するガイドラインの素案報告」

東京女子医科大学病院 核医学・PET検査室 金谷 信一

3. 技師による読影補助に関するWG

「第2回診療放射線技師による読影補助に関するアンケート調査」

公益財団法人倉敷中央医療機構倉敷中央病院 放射線センター 長木 昭男

**シンポジウム**（第7会場）10：00～12：00

「核医学施設における放射線安全管理技術」

司会 安田 鋭介（鈴鹿医療科学大学保健衛生学部放射線技術科学科）

司会 岡田 和弘（済生会熊本病院 中央放射線部）

・RI検査室において

千葉大学医学部附属病院 放射線部 飯森 隆志

・PET室（サイクロトロン含む）

医療法人 光陽会 魚住クリニック 千原 宏

・その他（手術室（センチネル）・RI治療室など）

近畿大学 医学部附属病院 中央放射線部 花岡 宏平

**合同閉会式**（第1会場）12：15～13：00

**市民公開講座**

11月10日 14：00～15：00 第8会場

原発事故後の現況と福島における取り組み

大津留 晶（福島県立医科大学・医学部 放射線健康管理学講座）

東日本大震災とその後の東京電力福島第一原子力発電所事故は、放射性降下物による広大な環境汚染と甚大な社会影響を引き起こした。今後も、長期的な原発事故の健康影響調査に加えて、地域保健・医療との協力体制による、きめ細かな対応が必要とされている。現況と我々の取り組みを紹介する。